

日本光学会第 180 回幹事会

日 時： 2007 年 1 月 16 日(火) 13:30~17:00

場 所： 機械振興会館

出席者： 伊東幹事長，他 40 名

議 事：

1. 平成 18 年度第 2 回常任幹事会議事録の確認

- ・平成 18 年度第 2 回常任幹事会議事録は承認された。

2. 幹事選挙結果報告

- ・平成 19 年度幹事選挙の結果，幹事会推薦候補者 18 名が選出されたことが報告された。

3. 次期幹事役職審議

- ・平成 19 年度幹事役職構成が提案され，承認された。

4. 報告事項

4-1. 「光学」関連報告

(1) 「光学」編集報告

- ・発刊作業の進捗が報告された。
- ・3 月に交代予定である編集委員の選定について，進捗報告が行われた。

4-2. 「OPTICAL REVIEW」関連報告

(1) 「OPTICAL REVIEW」編集報告

- ・掲載および投稿論文状況が報告された。
- ・Web 論文投稿および審査システムに関し，進捗報告が行われた。

(2) 「OPTICAL REVIEW」出版報告

- ・Springer との MOU 更新に関し，現在更新手続きの返答待ちであることが報告された。
- ・幹事会での承認に基づき修正追加された投稿料補助規定が示された。
- ・OR の Web アクセス数に関し報告があった。

4-3. 講演会関連報告

(1) Optics & Photonics Japan 2006 結果報告

- ・Optics & Photonics Japan 2006 の最終報告がなされた。
- ・詳細は OPJ 2006 開催報告として，「光学」第 36 巻第 2 号に掲載予定であることが報告された。

(2) Optics & Photonics Japan 2007 進捗報告

- ・各委員選定の進捗について報告があった。
- ・次回幹事会で，各委員の選定結果と OPJ 2007 の概略方針を提示する予定との報告があった。

(3) 平成 18 年度北陸信越講演会（北陸）結果報告

- ・参加者は 39 名，実りある講演会になったとの報告があった。

(4) 平成 18 年度北海道支部学術講演会結果報告

- ・参加者数はのべ 169 名で，有意義な講演会であったとの報告があった。

(5) 第 33 回冬期講習会結果報告

- ・参加者 77 名，講師 11 名で非常に活発な講習会であったとの報告があった。

(6) 第 40 回光学五学会関西支部連合講演会進捗報告

- ・広報活動等が報告され，順調な進捗であることが報告された。

(7) 平成 18 年度関西講演会進捗報告

- ・順調な進捗であるが，事前申し込みが少ないため，参加者募集の依頼があった。

(8) 平成 18 年度名古屋講演会進捗報告

- ・順調な進捗であるが，開催日に応用物理学会東海支部主催のセミナーが開催されるため開催日を変更する可能性が報告された。

(9) 第 32 回光学シンポジウム進捗報告

- ・第 32 回光学シンポジウム予算（案）が提案され，承認された。

- ・協賛依頼，招待講演依頼，広報活動に関し順調であるとの報告があった。

(10) カラーフォーラム JAPAN 2006 結果報告

- ・参加者数はのべ 93 名で，盛況であったとの報告があった。

(11) 第 41 回サマーセミナー進捗報告

- ・第 41 回サマーセミナー開催に関して，予定している開催日時および場所が示された。

4-4. その他報告事項

(1) 協賛依頼について

- ・5 件の協賛依頼について承認された。

(2) 会員動静について

- ・2006 年 12 月末日での会員動静が示され，会費滞納による退会者の影響で会員が減少したことが報告された。

(3) 収支計算書について

- ・2006 年度収支に関し報告（速報値）があった。

(4) 平成 18 年度光学会総会日時について

- ・平成 19 年春季第 54 回応用物理学会関連連合講演会会合に関し，予定が示された。

(5) 広報について

- ・日本光学会主催事業の広報活動マニュアルが示された。
- ・有料広告に関するガイドラインを，HP 担当幹事と協力

しながら作成するよう要請があった。

(6) 光学論文賞結果報告

- ・平成18年度光学論文賞の受賞者2名が選考され、応用物理学会幹事会へ結果報告をしたことが報告された。
- ・光学論文賞への投稿に必要な推薦文について、現行表記の「400字程度」から文字数の上限を定めた「1000字以内」への変更が提案され、承認された。

(7) 会員制度委員会報告

- ・日本光学会幹事会への監事業務、およびアドバイスを目的とした新役職の設立を検討中との報告があった。
- ・新役職の選出方法および権限に関しては、十分議論するよう要請があった。

(8) 500人会員増委員会報告

- ・進捗状況が示され、各イベント参加者の非会員リストを、今年度中に完成させる予定であることが報告された。

(9) 韓国光学会とのMOU強化について

- ・韓国光学会との間で、共催イベントにおいて人材交流を目的とした新しい試みができないかアイデア出しを行っているとの報告があった。

5. 審議事項

(1) 平成19年度活動計画(案)

- ・平成18年度日本光学会活動概要が報告された。
- ・平成19年度日本光学会年間計画(案)が提案され、承認された。

(2) 日本光学会ロゴマークについて

- ・進捗状況が示され、次回幹事会で具体的なロゴ案を提出予定であるとの報告があった。

(3) 日本光学会ホームページ改善について

- ・ホームページリニューアル後のアクセス状況について報告があった。
- ・ホームページからのリンクに対し、ガイドラインを作成するよう要請があった。

平成18年度第3回常任幹事会

2007年3月22日(木)に応用物理学会会議室において開催されました。「光学」編集報告、「OR」編集・出版報告、第41回サマーセミナー進捗報告、第33回冬期講習会収支報告、第40回光学五学会関西支部連合講演会結果報告、平成18年度関西講演会結果報告、平成18年度名古屋講演会結果報告、第32回光学シンポジウム進捗報告、OPJ2007進捗報告等がなされました。また、協賛依頼、会員動静、収支計算書、研究グループ活動、光学論文賞副賞、サマーセミナー担当者、産学官連携推進事業活動、会員制

度委員会、500人会員増委員会について報告がなされました。さらに、国際協力支援金規定、ODF'08支援金申請、総会資料、研究グループ補助金申請、日本光学会ロゴマーク、日本光学会ホームページ改善、会員制度委員会委員長及び500人会員増委員会委員長について審議がなされました。なお、詳しい幹事会議事録は第36巻第7号に掲載予定です。

平成18年度総会

平成18年度総会は、2007年3月28日(水)に青山学院大学において開催された。

まず、伊東一良幹事長より挨拶が行われたのち、今年度の動向について説明があった。

2006年度に、日本の地でNature Photonicsが創刊された。この意義は大きいが多様であるので、ここで議論するには時間が不足である。しかし、これを機会に日本のフォトリクス界への世界の注目度が今後さらに高まることは間違いないと思われる。さて、日本光学会の会員数であるが、本年1月末現在で、A会員727名、B会員1029名、特別会員(光学、OPTICAL REVIEW購読口数)167口となっている。冒頭の事実とは裏腹に、ここ数年減少または停滞が続いている。明確な理由はまだ不明である。日本光学会では本年度から、会員の満足度を高め、自然と会員が増えていくような体制を目指して、会員増計画を進めている。

2006年度の講演会活動を順に紹介する。第31回光学シンポジウムが「光学システム・光学素子の設計、製作、評価を中心として」と題して、6月22、23日に、東大生研コンベンションホールで開かれた。講演件数は25件、参加者数は351名と盛況であった。いろいろなところで、光学技術者の不足を耳にするが、このシンポジウムが光学技術者の育成・情報交換の場としてより有効に役立っていくことを期待する。サマーセミナーが第40回の節目を迎え、8月4、5日に「命と光—光学とバイオ・医療の関係—」をテーマに富士教育研修所(静岡県裾野市)において開催された。ナイトセッションや講師の方との交流など、一般の講演会やセミナーにはみられない催しが好評であった。

日本光学会年次学術講演会のネーミングが、Optics & Photonics Japan 2006と改められ、学術総合センター(一橋記念講堂)において、11月8~10日の3日間にわたって開催された。テーマの「“光のシナジー”を求めて—隣接学会、隣接国との協調と競争—」にもあるように、講演会の国際化が図られた。中国、台湾、韓国からの4名の新進気鋭の研究者らによる国際シンポジウムが開催され、北京大学、国立台湾大学、KAISTなどのアジア各国の第一

線の研究成果が紹介された。他の新しい試みとしては、学術講演会が分光学会との共催となり、合同シンポジウム「分光と光学の融合と協調」が開かれた。

目新しい企画としては、セラミックスレーザーの国際会議、LCS2006の一部が、「セラミックスレーザー国際シンポジウム」として開催され、日本眼光学学会との合同企画シンポジウム「最近の眼科測定装置」が開かれた。日本光学会産官学連携委員会が企画したシンポジウム「日本光学会における“場”の変革について考えよう—21世紀の知的創造に向けて—」が開催され、産官学の連携や強調のあり方が議論された。展示会出展企業によるランチョンセミナーや、企業との共催のセミナーと連動した「OPJ 2006 プレセミナー」, 「フォトニックナノ構造の設計と応用展開」という2つのプレセミナーも試みられた。

第33回冬期講習会は、「光診断と光治療の最前線」と題して、1月11, 12日の2日にわたって東京大学山上会館で開催された。光の役割に期待が集まっている分野だけに、会場では光の技術を利用する側と提供する側の間で熱心な質疑応答がなされた。

北陸、北海道、関西、名古屋の各地区で講演会が開催され、他学会との共催事業としては、3次元画像コンファレンス2006が7月6, 7日に、カラーフォーラム JAPAN 2006が11月27~29日に、第40回光学五学会関西支部連合講演会が1月27日に開かれた。

出版関係では、「光学」第35巻第4号~第36巻第3号(計12号)が、「OPTICAL REVIEW」Vol. 13 No. 2~Vol. 14 No. 1(計6号)が出版された。また、日本光学会のホームページがリニューアルされ、会員の利便性が大幅に向上した。

総会に先立ち平成18年度光学論文賞授賞式が行われ、田中拓男氏(理化学研究所)と王煒氏(電気通信大学)に授与された。また、日本光学会奨励賞は、堀泰明氏(産業技術総合研究所)と渡邊恵理子氏(日本女子大学)に授与された。2年目を迎え、名称も改まったOptics & Photonics Japan ベストプレゼンテーション賞は、奥田洋志氏(慶應義塾大学)、山内豊彦氏(浜松ホトニクス)、寺川光洋氏(慶應義塾大学)、川口拓之氏(慶應義塾大学)、堀崎遼一氏(大阪大学)、段志輝氏(電気通信大学)の6氏に贈られた。受賞された各氏の今後のご活躍を期待する。

国際関係では、SPIE(国際光工学会)のPaul F. McManamon 会長がEugene G. Arthurs 事務局長とともに日本を訪れ、日本光学会の正副前幹事長、日本光学会のSPIE Fellow等と情報や意見の交換を行った。特に最近の理科

離れについて、緊急の問題であるとの共通の認識を確認し、今後継続的に情報交換を行うことを約束した。

続いて、吉田庶務幹事(総務)より平成18年度事業報告および平成19年度事業計画、石橋会計幹事より平成18年度決算報告、豊田会計幹事より平成19年度予算案が提示され承認された。総会終了後、田中・王両氏による光学論文賞受賞記念講演が行われた。

なお、日本光学会の平成18年度事業および平成19年度の計画等に関する情報は、第36巻第7号の「日本光学会平成18年度年次報告」の中に詳細が掲載される予定である。

第232回「光学」編集委員会

2007年3月9日(金)に、応用物理学会会議室において新旧編集委員合同で開催されました。第36巻第12号、第37巻第1号の企画決定、第37巻第2, 3号の第二次構想案、第37巻第5号の第一次構想案の審議、第37巻第6, 7号の号担当の決定が行われました。その後、報告および審議事項を経て、論文投稿・審査状況についての報告、会計の報告がなされ、原著論文のトピカルエディター後任を決定しました。委員会終了後、九段会館にて新旧合同編集委員による懇親会が行われました。

第32回光学シンポジウム

期 日：2007年7月5日(木)、6日(金)

場 所：東京大学生産技術研究所コンベンションホール(東京都目黒区駒場4-6-1)

主 催：日本光学会

参加費：早期申込の場合、日本光学会会員2,000円、応物・協賛学協会会員・賛助会員4,000円、非会員(一般)6,000円、非会員(学生)1,000円。早期申込は6/22(金)までの申込に限ります。通常申込の場合、日本光学会会員3,000円、応物・協賛学協会会員・賛助会員5,000円、非会員(一般)7,000円、非会員(学生)1,000円。

申込方法：本号に挟み込みの郵便振替用紙をご利用いただくか、当日現金にてお支払いください。

問合せ先：(株)リコー 画像エンジン開発本部モジュール開発センター光学Md開発室 板橋彰久

〒243-0460 海老名市下今泉810

電話 046-292-5792 Fax 046-231-9047

E-mail: optsympo32@kind.ocn.ne.jp

詳細は日本光学会ホームページ(<http://annex.jsap.or.jp/OSJ/>)をご覧ください。

第41回サマーセミナー

テーマ：光とナノ構造—光とナノスケールの世界— (仮題)

期 日：2007年8月27日(月), 28日(火)

場 所：富士教育研修所 (〒410-1105 裾野市下和田 656)

主 催：日本光学会

詳細は日本光学会ホームページ (<http://annex.jsap.or.jp/OSJ/>) をご覧ください。

第6回ポリウムホログラフィックメモリ技術研究会

日 時：2007年6月13日(水) 13:30~17:00

場 所：松心会館ロータスホール (門真市中町1番19号)

主 催：日本光学会ポリウムホログラフィックメモリ技術研究グループ

講演テーマ：ポリウムホログラフィックメモリ用デバイスの新展開

講演内容 (予定)：

- ・磁気光学式空間光変調器の開発とコリニアホログラフへの応用
- ・GaN DFB 半導体レーザー (仮題)
- ・ホログラフィック超高速3次元画像取得装置 (仮題)
- ・ODS 2007 ホログラフィック光メモリ関連報告レビュー
- ・ポリウムホログラフィックメモリ・ワーキンググループ活動について

参加費：一般4,000円, 学生1,000円

申込方法：参加希望者はE-mailにて下記までお申し込みください。

申込・問合せ先：松下電器産業(株)AVコア技術開発センター 杉田知也

E-mail: sugita.tomoya@jp.panasonic.com

詳しくはホームページ (<http://qopt.iis.u-tokyo.ac.jp/VHM/>) をご覧ください。

ナノオプティクス研究グループ第16回研究討論会

主 催：日本光学会ナノオプティクス研究グループ

期 日：2007年7月13日(金), 14日(土)

場 所：神戸大学瀧川記念学術交流会館

講演討論内容：一般講演, ショート講演, 招待講演を予定。優れた講演には「ナノオプティクス賞」贈呈。

参加費：日本光学会会員2,000円, 学生500円, その他5,000円。

講演申込方法：E-mailにて講演題目, 氏名, 勤務先, 連絡先をお知らせください。

講演申込締切：2007年6月8日(金)

講演予稿締切：2007年6月22日(金)

申込・問合せ先：〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1

慶應義塾大学理工学部電子工学科 斎木敏治

電話 045-566-1784 Fax 045-566-1529

E-mail: saiki@elec.keio.ac.jp

<http://www.nano-optics.jp/>

日本光学会 *news* の掲載申込み先：

〒220-0073 横浜市西区岡野2-4-3 古河電気工業(株) 横浜研究所解析技術センター

麻生 修

電話 045-311-1212 Fax 045-314-5190 E-mail: aso@ch.furukawa.co.jp

なお、掲載申込みは原則として発行日(10日)から2か月前の15日まで、開催日が1~10日の場合は、開催日の3か月前の15日までにお願ひします。

日本光学会平成19年度幹事(*常任幹事)

幹事長：	伊東 一良*	(大阪大)		
副幹事長：	笹木 敬司*	(北海道大)	渡辺 正信*	(産総研)
前幹事長：	黒田 和男	(東京大)		
庶務幹事：	岡本 隆之*	(理化学研)	津村 徳道*	(千葉大)
	田中 哲*	(防衛大)	石橋 爾子*	(ネオアーク)
	菅谷 綾子*	(ニコン)	生駒 晋也*	(トプコン)
	竹内 誠二*	(キャノン)	麻生 修*	(古河電工)
	芦原 聡*	(東京農工大)		
『光学』編集幹事：	伊藤 雅英*	(筑波大)	小野寺理文	(能開大)
『OPTICAL REVIEW』編集・出版幹事：	植田 憲一*	(電通大)	石井 行弘*	(東京理科大)
国際協力幹事：	各務 学	(豊田中央研)	中川 清	(香川大)
産学協力幹事：	藤井 秀雄	(ペンタックス)	石樽 崇明	(慶應義塾大)
将来問題担当幹事：	清水 賀代	(日本女子大)	谷川ゆかり	(産総研)
電子化担当幹事：	伊藤 達男	(松下電器)	森野 剛志	(東芝)
事業・企画担当幹事：	佐藤 康郊	(富士ゼロックス)	岡田 訓明	(シャープ)
	板橋 彰久	(リコー)	白石 武嗣	(コニカミノルタオプト)
	武山 哲英	(オリンパス)	西畑 純弘	(富士フィルム)
	忠永 修**	(NTT)	吉川 宣一	(埼玉大)
	佐藤 雅之	(北九州市立大)	二瓶 裕之	(北海道医療大)
	佐藤 俊一	(東北大)	田代 発造	(富山大)
	鈴木 孝昌	(新潟大)	杉田 篤史	(静岡大)
	和田 健司	(大阪府立大)	松尾 繁樹	(徳島大)
	入江 正浩	(九州大)		

** 幹事代理。次回幹事選挙にて幹事会推薦予定。